

I 三番瀬自然環境合同調査の概要、結果

1. 目的

県民、NPO等が中心になって、県・市と協働で、「三番瀬自然環境モニタリングマニュアル」を活用しながら、三番瀬の自然環境についての調査(試料の採取、同定、結果の取りまとめ、考察、報告書の作成など)を行うことにより、参加者の三番瀬に対する理解を深めるとともに、モニタリングについての知識、技術等を習得していただき、そこから広く市民・NPOにモニタリングへの参加の幅を広げていくことを目的としています。

また、併せて、技術向上など調査精度の向上に取り組みながら継続的に実施することにより、モニタリングデータとして有効活用を図っていきます。

2. 現地調査

(1) 調査地点

浦安市日の出地先の海域で、北緯 $35^{\circ}38'26.8''$ 東経 $139^{\circ}56'20.3''$ 付近を基準点とする10地点で調査を実施しました。(図1、図2)

このエリアは、大潮時に広く干出する場所です。

(2) 調査日

平成19年度は、夏季調査(7月14日)と秋季調査(9月11日)を予定しましたが、夏季調査は、台風4号の影響による荒天のため中止し、秋季調査のみ実施しました。



(3) 調査方法

調査は、表1の公募した市民（以下「参加者」）が行いました。

まず、調査地点の緯度・経度、天候、水温、酸化還元電位、底質、生物痕の有無などについて測定等を行ったうえで、各地点とも、20cm×20cm×深さ20cmの採泥を行い、1mmのふるいに残った生物を採取し、同日に、ソーティング、同定を行いました。



同定については、浦安市郷土博物館の島村主任研究員、市川市自然環境担当の須藤副主幹、千葉県中央博物館海の博物館の立川研究員、千葉県環境研究センターの小倉室長の助言のもと参加者が行いました。

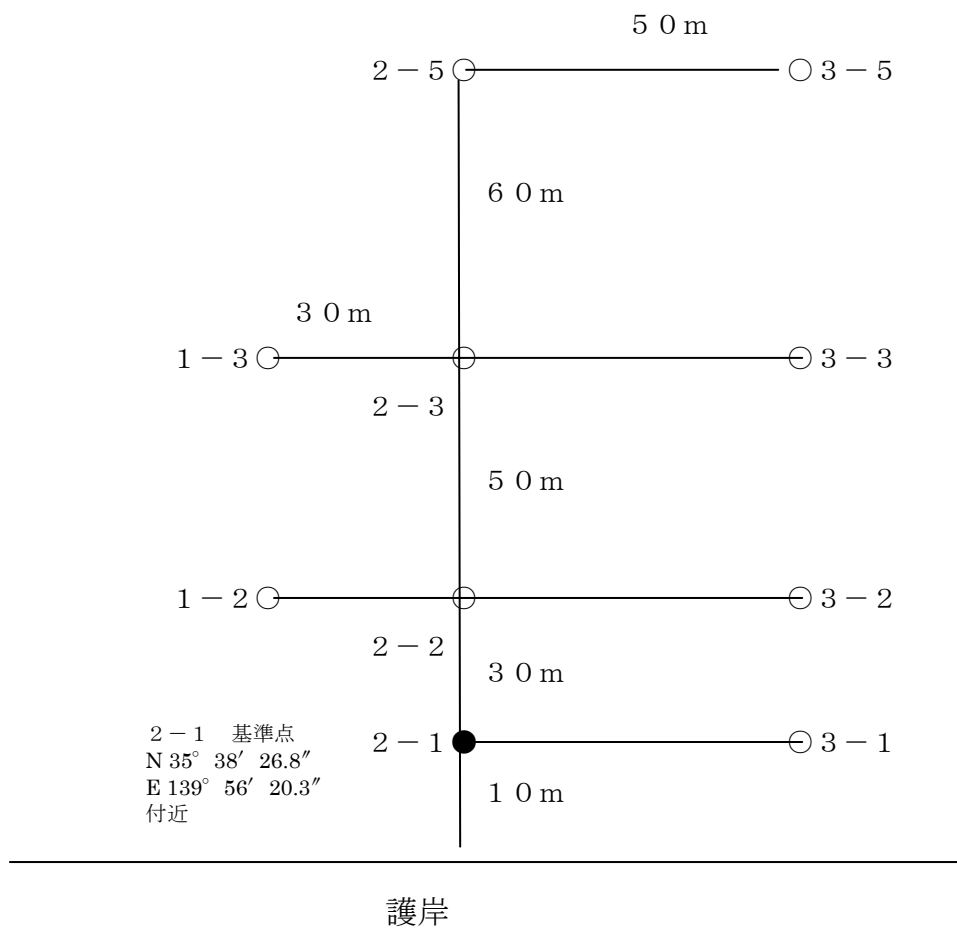
定量については、個体数、湿重量、二枚貝（アサリ、シオフキガイ、マテガイ）の殻長を計測しました。



図1 平成19年度三番瀬自然環境合同調査地点(1)



図2 平成19年度三番瀬自然環境合同調査地点(2)



調査地点番号は、平成18年度調査と同じ番号を使用しているため、欠番があります。



表1 平成19年度三番瀬自然環境合同調査
(秋季現地調査) 参加者名簿

番号	氏名 (敬称略・順不同)	所属等
1	今井 学	浦安市在住
2	栴井 完治	佐倉市在住
3	栴井 幸子	佐倉市在住
4	嘉瀬井 恵子	立教大学 大学院
5	米谷 徳子	元千葉県三番瀬再生会議委員
6	中山 茂	成田市在住
7	垣内 勇人	東京大学 大学院
8	吉良 亮一	東京海洋大学 海洋科学部
9	倉田 尚英	市川市在住
10	梅野 晋介	千葉工業大学工学部生命環境科学科
11	押田 悠樹	千葉工業大学工学部生命環境科学科
12	高崎 晃子	千葉工業大学工学部生命環境科学科
13	熊野 洋平	千葉工業大学工学部生命環境科学科
14	矢矧 和可子	千葉工業大学工学部生命環境科学科
15	高澤 ゆか	千葉工業大学工学部生命環境科学科
16	藤村 葉子	千葉県環境研究センター

3. 勉強会等

参加者が調査方法や三番瀬の生き物について学ぶとともに、調査結果の考察などを行うため、事前勉強会、考察会、事後勉強会を開催しました。

(1) 事前勉強会（平成19年7月7日（土））

事前勉強会では、調査方法・器具、三番瀬の概要などの説明を行いました。また、講義として、浦安市郷土博物館の島村研究員の講師で、「三番瀬の底生生物等の基礎知識」について学びました。

- ・ 三番瀬の概要について
- ・ 講義「三番瀬の底生生物等の基礎知識」
- ・ 三番瀬の漁業規制等
- ・ 現地調査の方法、調査器具について



(2) 考察会（平成19年9月25日（火））

考察会では、9月11日（火）に実施した現地調査の結果について、グループに分かれて考察し、発表を行いました。また、講義として、市川市自然環境担当の須藤副主幹の講師で、「モニタリング調査結果の取りまとめと活用」について学びました。

- ・ 講義「モニタリング調査結果の取りまとめと活用」
- ・ グループ討議
- ・ グループ発表
- ・ 講師コメント



(3) 事後勉強会（平成19年10月13日（土））

事後勉強会では、考察会では十分に考察の時間がとれなかったため、さらに、グループで考察を行うとともに、報告書の取りまとめの方法についての意見交換を行いました。また、講義として、千葉県立中央博物館海の博物館の柳研究員の講師で、「干潟に生息するイソギンチャク類」について学びました。

- ・ 報告書について
- ・ グループ討議（考察）
- ・ 講義「干潟に生息するイソギンチャク類」

